

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

### <団体情報>

担当小委員会	第 34 小委員会
事務局	(一社) 日本照明工業会

### <規格情報>

規格番号（発行年）	<b>JIS C 8324 (2023)</b>
対応国際規格番号：発行年	<b>IEC 60400:2017+AMD1:2020+AMD2:2022</b>
規格タイトル	蛍光灯ソケット及びスタータソケット
適用範囲に含まれる主な電気用品名	蛍光灯用ソケット，蛍光灯用スタータソケット
廃止する基準（発行年）及び有効期間	<b>J60400 (H29)</b> / 有効期間 3 年間
雑音の強さ（当てはまらない選択肢を消去）	・規格適用なし —・表 2 を適用—・この規格を適用—

### <審議中に問題となったこと>

旧規格では、技術的差異事項（デビエーション）として、蛍光灯ソケットのインターロック機構に対する要求事項を追加していたが、今回の改正で削除するか議論した。

管灯回路の使用電圧が 300 V を超える 110 W 形蛍光灯ランプなどを使用する蛍光灯器具の場合、内線規程（3220 節-5）において、一次側と二次側とが絶縁されていない放電灯用安定器を使用することはできず、一次側と二次側とが絶縁されている放電灯用変圧器を用いることが要求されている。ただし、インターロックをもつ蛍光灯ソケットを使用すれば一次側と二次側とが絶縁されていない放電灯用安定器の使用が許容されている。近年、300V を超える電圧を蛍光灯ランプに印加する蛍光灯器具の生産が著しく減少している背景もあって、我が国独自の要求事項を削除してもよいとの意見もあったが、審議した結果、市場には対象となる蛍光灯ランプが交換用として生産が継続されているため、削除するには、時期尚早と判断し、旧規格のとおり、要求事項を残すこととした。

### <主な国際規格との差異の概要とその理由>

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

項目番号	概 要	理 由
11.7	IEC 60399 への適合を要求するのは、シェードホルダリングの互換性を意図している場合だけに限定した。	我が国では、シェードホルダリングと同様の構造であるが、特定のランプソケット専用として設計された部品を、器具付属部品の固定手段として用いることが一般的である。JIS では互換性をもつことを意図している場合だけ、IEC 60399 への適合を求めるように変更した。
11.7	JIS C 7709-2 と同様に測定器による判定を可能とする差異事項を追加した。	我が国で普及している代替方法を追加して選択可能にするため、デビエーションを追加した。

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

項目番号	概 要	理 由
17	表3の空間距離に対する定格電圧の区分を変更した。	対応国際規格の空間距離について、表3内の電圧区分は50V、150V、250V及び500Vである。一方、照明器具の規格（JIS C 8105-1）や制御装置の規格（JIS C 8147-1）では、50V、150V、300V及び600Vの電圧区分へ変更された。将来的には、対応国際規格にも反映されることが予測されるため、この内容を先取りするデビエーションを追加した。

### <主な改正点>

注記：青文字は、小委員会承認後報告時に記載ができていなかった事項であり、追加した部分である。

項目番号	概 要	理 由
3	“定格電流”，“臨界周波数”，“イグニッション電圧”，“イグニッションパルス電圧”，“最大動作電圧”，“最大動作ピーク出力電圧”及び“等価変換ピーク電圧”の用語を追加した。	対応国際規格の改正に合わせて追加した。
8.2	商用電源に直接接続するG5及びG13ソケットに対して、LEDランプを装着できる情報を製造業者のカatalog又はこれに類するものに記載する要求事項を追加した。	対応国際規格の改正に合わせて追加した。
8.4	対応国際規格にはない事項として、旧規格に追加されていた“防雨形”及び“防浸形”ソケットに関する表示の規定を削除した。	電安法別表第四からの引用であり、JIS C 8300で対応可能なため削除した。
11.7	IEC 60399への適合を要求するのは、シェードホルダリングの互換性を意図している場合だけに限定した。	我が国では、シェードホルダリングと同様の構造であるが、特定のランプソケット専用として設計された部品を、器具付属部品の固定手段として用いることが一般的である。JISでは互換性をもつことを意図している場合だけ、IEC 60399への適合を求めるように変更した。
11.7	JIS C 7709-2と同様に測定器による判定を可能とする差異事項を追加した。	我が国で普及している代替方法を追加して選択可能にするため、デビエーションを追加した。

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

項目番号	概 要	理 由
12.1	対応国際規格にはない事項として、旧規格に追加されていた“防浸形”ソケットに関する試験項目を削除した。	電安法別表第四からの引用であり、JIS C 8300 で対応可能なため削除した。
13.3	商用電源に直接接続するソケットの耐電圧試験に関する要求事項を追加した。	対応国際規格の改正に合わせ、商用電源に直接接続するソケットが普及している背景から、新たな要求事項を追加された。蛍光灯ランプを装着する場合、ソケットの接点間の電圧は特別低電圧に該当するため、試験電圧は 500 V でよい。商用電源に直接接続するソケットでは、ソケットの接点間に商用電源の電圧が印加されるため、 $(2U+1\,000)$ V (U は、製造業者によって宣言された定格電圧) の試験電圧となる。
17	表 3 の空間距離に対する定格電圧の区分を変更した。	対応国際規格の空間距離について、表 3 内の電圧区分は 50 V、150 V、250 V 及び 500 V である。一方、照明器具の規格 (JIS C 8105-1) や制御装置の規格 (JIS C 8147-1) では、50 V、150 V、300 V 及び 600 V の電圧区分へ変更された。将来的には、対応国際規格にも反映されることが予測されるため、この内容を先取りするデベエーションを追加した。
17	旧規格では、表 3 で記載のある定格電圧以外の場合、沿面距離及び空間距離は、表内の電圧区分間の値を直線補間法によって求めることが可能であったが、沿面距離だけのみ可能である記述へと修正した。	対応国際規格の改正に合わせて変更した。空間距離は、絶縁物ではなく、空間（空気）によって絶縁性能を確保し、過渡電圧を考慮しなければならないため、直線補間法は適さないためである。
17	表 3 内に、導電路を形成しない無機物に対する記述及び直流の定格電圧に対する記述を追加した。	対応国際規格の改正に合わせて追加した。
18	へこみ深さによる判定方法の記述を削除した。	対応国際規格の改正に合わせて削除した。これは JIS C 60695-10-2:2008 に、直径による方法よりも再現性が低いことが示されているためである。
附属書 D	旧規格に対して新規格又はより厳しい要求事項を記載した附属書 D を新設した。	対応国際規格の改正に合わせて新設した。
附属書 E	動作電圧 $U_{out}$ の手引きとなる附属書 E を新設した。	対応国際規格の改正に合わせて新設した。

## 技術基準との整合確認書

<技術基準省令への整合性>

規格番号：JIS C xxxx-x:20XX      規格名：

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第二条 第1項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条4	箇条4 一般要求事項 ソケットは、通常の使用において確実に機能し、かつ、人及び周囲に危険を与えない設計及び構造でなければならない。	
第二条 第2項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	<b>箇条10</b> 10.1 10.2 10.4 10.5 <b>箇条11</b>	箇条10 端子 10.1 ソケットは、適切な端子接続方法を一つ以上もたなければならない。 10.2 ねじ締め式端子、ねじなし端子、平形差込み端子又は丸形差込み端子等は、既定の規格に適合しなければならない。 10.4 全ての端子は、電線を容易に取り付けることが可能でなければならない。 10.5 口出し線は、はんだ、溶接、圧着又はこれらと同等以上の方法で、ソケットに接続しなければならない。 <b>箇条11 構造</b> （10.1を除き、全細分箇条を含む。） 蛍光灯ソケット及びスタータソケットは、次のようなものでなければならない。 一容易に着脱でき、かつ、振動又は温度変化で緩まないように設計 一十分な接触力が得られる設計	

## 技術基準との整合確認書

					<p>ー蛍光灯ソケットは、ランプ装着時にランプの取付位置が手ごたえで分かる構造</p> <p>ー規定のデータシートに適合した寸法</p> <p>ー片口金蛍光ランプは、少なくともソケット側の接触部の一部分は、ランプピンの非かしめ部側に常に接触する構造</p> <p>ーシェードホルダリングが互換性をもつことを意図して用いる場合、シェードホルダリングのための外ねじをもつランプソケット及びシェードホルダリングは、IEC 60399 に適合する構造</p> <p><b>箇条 16</b></p> <p>16.2 ねじ、導電部及び接続</p> <p>16.2 スペーススレッドねじは、通電部を直接互いに接触させて締め付けて、適切なロック手段を設ける場合を除き、通電部の接続に使用してはならない。</p> <p>16.3 絶縁材料のめねじに対して締め付けるねじの場合、めねじ部は、ねじを確実に挿入可能でなければならない。</p> <p>16.4 電気接続部は、接触圧力がセラミック以外の絶縁材料を通して伝達されないように設計しなければならない。</p>	
第三条 第1項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p>箇条 16</p> <p>16.5</p>	<p>箇条 16 ねじ、導電部及び接続</p> <p>16.5 機械的な接続だけでなく電氣的な接続としても使用するねじ及びリベットは、緩まないように固定しなければならない。</p>	
第三条 第2項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p><b>箇条 8</b></p> <p>8.1</p>	<p>箇条 8 表示</p> <p>8.1 ソケットには、製造業者名、形式番号、定格電圧、</p>	

## 技術基準との整合確認書

		気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。		<p>8.2</p> <p>8.3</p> <p>8.4</p> <p><b>箇条 10</b></p> <p>10.3</p> <p><b>箇条 11</b></p> <p>11.2</p>	<p>定格電流等を表示しなければならない。</p> <p>8.2 次の情報は、製造業者のカatalog又はこれに類するものに記載する。記載事項は、製品上に表示する形式番号に対応しなければならない。</p> <p>ー規定の試験でのソケットの背面温度</p> <p>ー規定の試験でのソケットのねじなし端子の温度</p> <p>ーソケット端子に適する導体断面積</p> <p>8.3 直管両口金の蛍光灯用である一對の蛍光灯ソケットに対し、正確な取付け及び動作を保証するために、製造業者又は責任のある販売業者による取扱説明書には、少なくとも次の事項を記載しなければならない。</p> <p>ー取付方法</p> <p>ー取付間隔及び許容差、又は参照するデータシート</p> <p>ー一對で使用するとき組み合わせる蛍光灯ソケットの形式番号</p> <p>8.4 記号を用いて表示する場合は、既定の記号を使用しなければならない。</p> <p><b>箇条 10</b> 端子</p> <p>10.3 照明器具又はその他の追加外郭類に組み込むための、専用に設計した蛍光灯ソケットの場合、上記の導体断面積範囲以外のものを認めるが、その場合、製造業者は端子が対象とする導体断面積を明記しなければならない。</p> <p><b>箇条 11</b> 構造</p> <p>11.2 ランプが装着されていない状態での GX5 蛍光</p>	
--	--	--	--	--	---	--

## 技術基準との整合確認書

				11.4	灯ソケットの最大取付間隔の情報は、製造業者又は責任のある販売業者の文書の中に示さなければならない。	
				11.5	11.4 蛍光灯ソケットからランプを取り外す方法は、簡単で明確でなければならない。必要がある場合は、取り外す方法を表示しなければならない。 11.5 製造業者の取扱説明書には、ソケットの正確な取付けに必要な全情報を示さなければならない。	
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	■該当 □非該当	<b>箇条 10</b> 10.6  <b>箇条 14</b>  14A  <b>箇条 16</b> 16.1	<b>箇条 10</b> 端子 10.6 ヒンジ付き蛍光灯ソケットは、既定の往復操作試験後、接続部の接触抵抗は適切な値でなければならない。 <b>箇条 14</b> 耐久性 ソケットは、長期間の通常使用においても、この規格への適合性を損なうような、電氣的又は機械的な故障を防ぐ構造でなければならない。絶縁部分は熱、振動などによる異常がなく、接続部分は緩んではならない。 14A インターロック接点の性能 インターロック接点の性能は、開閉試験後、異常があってはならない。 <b>箇条 16</b> ねじ、導電部及び接続 16.1 破損によって、ソケットの安全性を損なうおそれのあるねじ及び機械的接続部は、通常の使用状態で生じる機械的応力に耐えなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

				<b>箇条 19</b>  19.1  19.2	<b>箇条 19</b> 過度の残留応力（自然割れ）及びさびに対する抵抗力  19.1 銅又は銅合金のロール材の接点及びその他の部分は、故障によってソケットが不安全となるおそれがある場合、過度の残留応力によって損傷してはならない。  19.2 鉄の部分は、ソケットに危険を生じさせるようなさびが生じないように、適切に保護しなければならない。	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 12</b>  12.1  12.2	<b>箇条 12</b> じんあい及び水気の侵入に対する保護  12.1 IP 保護等級の表示があるソケットの場合、外郭は、組立後のソケットの分類に従って、じんあい及び水気の侵入に対する保護等級を備えていなければならない。  12.2 ソケットは、耐湿性をもたなければならない。	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 11</b> 11.1  <b>箇条 16</b> 16.6  <b>箇条 18</b> 18.1  18.2	<b>箇条 11</b> 構造  11.1 木材、綿、絹、紙及び類似の吸湿材料は、適切に含浸した場合を除き、絶縁体として認められない。  <b>箇条 16</b> ねじ、導電部及び接続  16.6 通電部は、銅、50 %以上の銅を含む合金又はこれらと同等以上の特性をもつ材料でなければならない。  <b>箇条 18</b> 耐熱、耐火性及び耐トラッキング性  18.1 ソケットは、十分な耐熱性をもたなければならない。  18.2 感電保護のための外郭及び絶縁材料製の外部部	

## 技術基準との整合確認書

				18.6	品、並びに充電部を所定の位置に保持する絶縁材料の部品は、規定するボールプレッシャ試験に適合しなければならない。 18.6 普通形以外のソケットでは、充電部を所定の位置に保持する絶縁部品は、適切な耐トラッキング性をもたなければならない。	
第七条 第1号	感電に対する 保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	■該当 □非該当	箇条9 9.1  9.2  9.3  9.4	箇条9 感電に対する保護 9.1 照明器具に組み込むか又は取り付けしたソケットを、通常の使用状態に配線し、適合するランプ及び／又はスタータを取り付けた状態で、その充電部が可触とならない構造でなければならない。 9.2 ソケットは、通常の使用状態に取り付けた状態、ランプ及びスタータを取り除いた状態、及びランプ又はスタータの装着・交換時の状態いずれにおいても感電に対する保護をしなければならない。 9.3 感電に対する保護のための部品は、適切な機械的強度をもち、通常の使用状態で緩んではならない。 9.4 取り付け後に容易に手が触れるソケットの外側の部分は、絶縁材料製であるか、導電性の材質の場合は、ソケットの充電部から適切に絶縁しなければならない。	
第七条 第2号	感電に対する 保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	■該当 □非該当	箇条4	箇条4 一般要求事項 ソケットは、通常の使用において確実に機能し、かつ、人及び周囲に危険を与えない設計及び構造でなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 13</b>  <b>箇条 17</b>	箇条 13 絶縁抵抗及び耐電圧（全細分箇条含む。） ソケットは、適切な絶縁抵抗及び耐電圧特性をもっていなければならない。 箇条 17 沿面距離及び空間距離 異極充電部間、充電部と外部金属部分等の沿面距離及び空間距離は、既定の値以上でなければならない。	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 18</b> 18.3  18.4  18.5	箇条 18 耐熱、耐火性及び耐トラッキング性 18.3 感電保護のための絶縁材料製の外側部品、及び充電部を所定の位置に保持する絶縁材料部品は、耐火性及び耐着火性をもたなければならない。 18.4 感電保護のための絶縁材料の外側部品は、規定するグローワイヤ試験に適合しなければならない。 18.5 充電部を所定の位置に保持する絶縁材料製部品は、規定するニードルフレーム試験に適合しなければならない。	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 4</b>	箇条 4 一般要求事項 ソケットは、通常の使用において確実に機能し、かつ、人及び周囲に危険を与えない設計及び構造でなければならない。	
第十一条 第1項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 10</b> 10.4  10.6	箇条 10 端子 10.4 端子にカバーがある場合は、そのカバーによって電線をきず付けることなく、取り付けることが可能でなければならない。 10.6 ヒンジ付き蛍光灯ソケットは、配線を傷つけない構造でなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

第十一条 第2項	機械的危険源 による危害の 防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用 によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、 又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な 強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当  □非該当	<b>箇条 9</b> 9.3  <b>箇条 10</b> 10.5  <b>箇条 15</b> 15.1  15.2  15.3  15.3A  15.4  <b>箇条 16</b> 16.1	箇条 9 感電に対する保護  9.3 感電に対する保護のための部品は、適切な機械的 強度をもち、通常の使用状態で緩んではならない。  箇条 10 端子  10.5 ソケットと口出し線との固定は、通常の使用状 態で発生する機械的な力に耐えなければならない。  箇条 15 機械的強度  15.1 ソケットは、十分な機械的強度がなければなら ない。  15.2 照明器具又は追加外郭類への組込専用の蛍光灯 ソケットは、機械的強度試験後、重大な損傷があつて はならない。  15.3 蛍光灯ソケットにゲージを装着し、その状態で 押込み等の試験で、蛍光灯ソケットに損傷があつては ならない。  15.3A ランプ軸方向に着脱操作を行う蛍光灯ソケッ トは、製造業者の指定する使用状態に取り付け、適合 する口金を正しく装着し、押込み試験で、蛍光灯ソケ ットに損傷があつてはならない。  15.4 データシートに規定するゲージをスタータソケ ットに装着し、押込み試験で、スタータソケットに損 傷があつてはならない。  箇条 16 ねじ、導電部及び接続  16.1 破損によって、ソケットの安全性を損なうおそ れのあるねじ及び機械的接続部は、通常の使用状態で	
-------------	------------------------	---	-----------------	---	--	--

## 技術基準との整合確認書

					生じる機械的応力に耐えなければならない。	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、人体に危害又は物件に損傷を及ぼす恐れのある化学物質の流出及び溶出がないため、非該当が妥当と考える。
第十三条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、人体に危害を及ぼす恐れのある電磁波が発生しないため、非該当が妥当と考える。
第十四条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条4	箇条4 一般要求事項 ソケットは、通常の使用において確実に機能し、かつ、人及び周囲に危険を与えない設計及び構造でなければならない。	
第十五条 第1項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、始動の機能はないため、非該当が妥当と考える。
第十五条 第2項	始動、再始動及び停止による	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、再始動の機能はない

## 技術基準との整合確認書

	る危害の防止	与えるおそれがないものとする。				ため、非該当が妥当と考える。
第十五条 第3項	始動，再始動及び停止による危害の防止	電気用品は，不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし，又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、停止の機能はないため、非該当が妥当と考える。
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は，当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し，異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに，安全装置が作動するまでの間，回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条10 10.2  10.3  10.5	箇条10 10.2 ねじ締め式端子，ねじなし端子，平形差込み端子又は丸形差込み端子等は，既定の導体が適切に接続できるものでなければならない。 10.3 JIS C 8105-1の第14章及び第15章の中で規定していない限り，器具内用ソケットの端子は，導体断面積0.5 mm <sup>2</sup> ～1.0 mm <sup>2</sup> ，独立形ソケットの端子は，導体断面積1.0 mm <sup>2</sup> ～1.5 mm <sup>2</sup> の導体を接続可能なものでなければならない。 10.5 口出し線は，絶縁した導体で，導体断面積は，0.75 mm <sup>2</sup> 以上でなければならない。	
第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は，電氣的，磁氣的又は電磁的妨害により，安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、ソケットは電磁的妨害による誤動作により、安全機能に障害が生じることはないため、非該当が妥当と考える。

## 技術基準との整合確認書

第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、ソケットは雑音を発生する要因を持っていないため、非該当が妥当と考える。
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<b>箇条 8</b> 8.5  8.6	箇条 8 表示 8.5 ソケット本体への表示は、通常の状態に取り付けたときに、必要がある場合カバーを外して、容易に見えなければならない。 8.6 表示は、耐久性があり容易に読めなければならない。	
第二十条 第 1 号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため、非該当が妥当と考える。

## 技術基準との整合確認書

		劣化による発火，けが等の事故に至るおそれがある旨				
第二十条 第2号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	二 電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に，明瞭に判読でき，かつ，容易に消えない方法で，次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると，経年劣化による発火，けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため，非該当が妥当と考える。
第二十条 第3号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り，産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に，明瞭に判読でき，かつ，容易に消えない方法で，次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると，経年劣化による発火，けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため，非該当が妥当と考える。
第二十条 第4号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り，産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に，明瞭に判読でき，かつ，容易に消えない方法で，次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると，経年劣化による発火，けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため，非該当が妥当と考える。